

福島第一原子力発電所 4号機 の状況をお知らせします

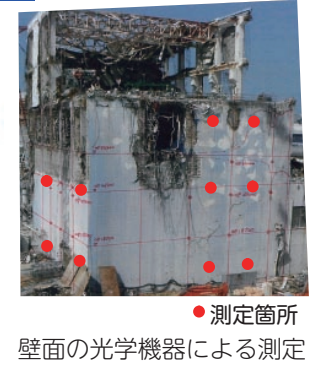
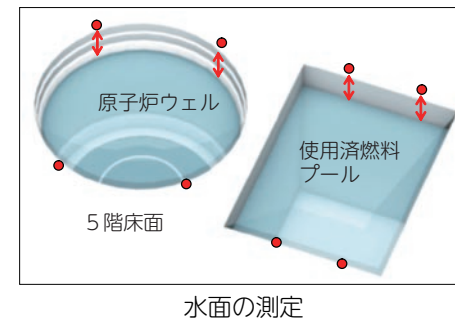
福島第一原子力発電所の事故発生以来、地域の皆さまに大変なご心配とご迷惑をおかけしており、改めて心よりお詫び申し上げます。4号機の使用済燃料プール等の状況についてお知らせします。

(1) 4号機の使用済燃料プールの概要

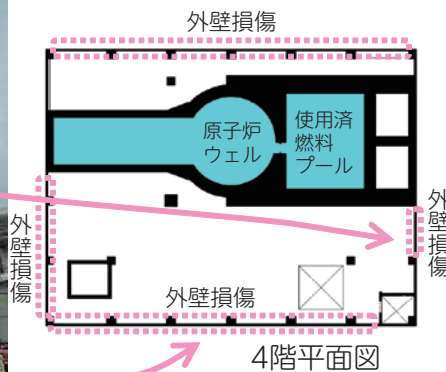
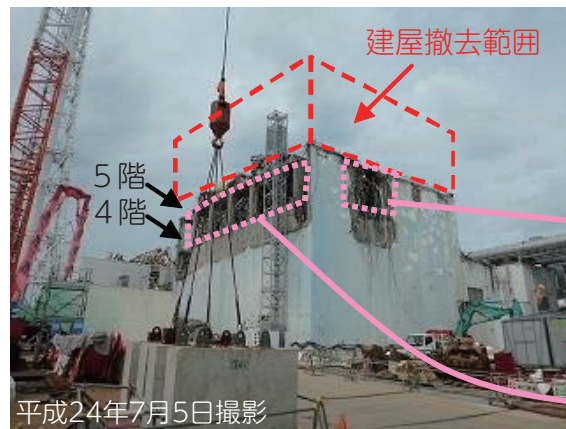
- ◆厚さ約140～185cmの鉄筋コンクリート製のプールで、厚さ約3mmのステンレス鋼板で内張りされています。
- ◆プールの水は上から入れて、付属するタンクにあふれさせることにより冷却と浄化をしており、プールの側面や底面を貫通する配管や水抜き用の穴はありません。
- ◆深さは約11mあり、水面から燃料の最上部まで約7mあります。
- ◆4号機は、東北地方太平洋沖地震の際には定期検査中で、使用済燃料1331体と、新燃料204体が置かれていました。

(2) 原子炉建屋が傾いていないことを測定しました

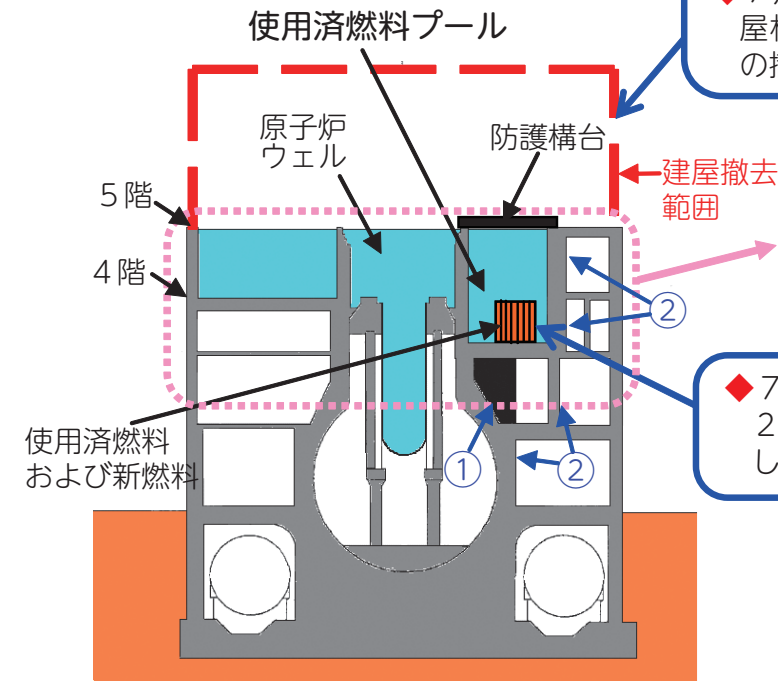
- ◆原子炉建屋5階の使用済燃料プールと原子炉ウエルの水面が平行であることを確認しました。
- ◆原子炉建屋の壁面の光学機器による測定で壁が垂直であることを確認しました。
- ◆これらにより、原子炉建屋が傾いていないことを確認しました。



(3) 使用済燃料プールの耐震安全性を確認しました



- ◆プールは、下部の鉄筋コンクリートの構造体で支えられています。
- ◆爆発等による損傷を考慮した状態で解析し、震度6強の地震でもプールが安全であることを確認しました。さらにプールの底部を鋼製支柱とコンクリートで補強し、耐震余裕度を20%以上向上させました。→右図①
- ◆プールおよびプールを支える壁のコンクリート強度とひび割れを確認しましたが、強度に影響を及ぼすような損傷はありませんでした。→右図②



◆7月11日に5階より上部の屋根・柱・梁等の建屋がれきの撤去が完了しました。



◆7月18, 19日に試験的に新燃料を2体取り出し、共用プールに運搬しました。今後、詳細調査を行います。



引き続き、燃料取り出しに向けて作業を着実に進め原子炉建屋の健全性も定期的に確認してまいります。

新燃料の放射線と発熱の量は低く水中から取り出すことが可能です。